

## 自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
<b>I. 理念・安心と安全に基づく運営</b>							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	『この場所(町)で穏やかに共に生き「私の人生よかった」の笑顔を尽くします』を理念にそれに即した認知症ケアの実践に努めている。職員は就業前に個々で唱和している			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	認知症予防啓発活動の一環として、地域包括支援センターと協働し地区のいこいのついでミュージック・ケアを展開。地域にグループホームを知って戴く良い機会となった。町内避難訓練に利用者に参加。電話での問い合わせや入所申し込みに来られた家族の話をよく聞き相談支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、地域包括支援センター職員協働し地域に向けた活動を展開していく。(地域におけるグループホームの役割)</li> <li>・利用者と直接かかわり認知症ケアを学びたい。</li> </ul>		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	5月コロナ5類に移行後の緩和に向けた活動を目指し達成計画に反映し会議で報告。新たな具体案として意見戴き実践中。11月目標達成計画の進捗状況を報告し、評価13項目について話し合った。	新たな具体案:人材育成に関して、研修で学んだことをどのようにして利用者に反映されているのか事例を運営推進会議で報告すると良いのでは。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	運営推進会議にて、委員会での検討内容や具体的な対策、ケア現場の実情を踏まえた課題に対する取り組みについて意見戴いている。又防災、コロナ発生時対応についても指導戴くなど、日頃より相談し協力関係を築くよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内コロナ感染 軽微な症状であってもコロナと疑い初動対応にて、まん延防止に努める。</li> <li>・能登半島地震の発生を受け 自分は大丈夫と根拠のない自信があるがそれを断ち切る必要がある。 備蓄の非常食・水の賞味期限が近くなったら、それだけで一日過ごしてみる日を設けてみては。 一日どれだけの水が必要かわかる(目安)</li> </ul>		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	虐待防止・身体拘束廃止委員会を毎月開催。日々のケアで身体拘束や虐待・不適切ケアはないか、又繋がりそうな事案について検討し、職員会議で周知。又運営推進会議にて報告。身体拘束廃止の課題と実践について研修受講し勉強会にて職員全員に周知した。	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない		本人の表情や職員と接する時の雰囲気から不安を感じた事がないので、適切な対応がされている。虐待・身体拘束について意識するだけで効果があると思う。 職員間で周知できている。

6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員は、ケアの振り返りを行い不適切ケアの事案を委員会で検討。職員会議にて検討内容を周知。自己点検シート・気づきのアンケートを実施・集計し現状把握。虐待防止の為の改善計画作成、取り組み実施、運営推進会議で報告。高齢者虐待について外部研修受講し勉強会にて職員全員に周知。		Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	これらについて通報の義務が定められているが難しい面もある。更に経過観察を重視して下さい。会議での報告で職員全員がしっかり取り組んでいると理解している。引き続き、風通しの良い職場環境で取り組みを継続して欲しい。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	成年後見講座の資料を基に勉強会を実施。成年後見制度利用の必要性を現在利用している利用者を事例に話し合い学ぶ機会とした。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約時、本人や家族に不安や疑問点を訪ねながら契約書や重要事項説明書の説明をし、理解・納得図っている。解約時、契約に基づき、その決定過程を明確にして本人や家族に分かり易く説明し理解・納得戴いている。重要事項内容の変更の際には、事前に電話や面会時に口頭で説明し、書面にて変更内容に対しご理解の上同意戴いている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々のケアの中で、又面会時や運営推進会議にて本人や家族の意見等を聞き運営に反映している。年1回家族向け満足度アンケート実施・集計し運営推進会議で報告。又ラポール委員会での利用者の意見も反映している。		Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	会議で出た課題を積極的に取り入れる様子が伝わる。本人の希望を確認する事は難しいので家族と情報共有して善処して欲しい。会議で、又聞きたい事があれば都度確認している。家族の意見にしっかり耳を傾けている姿勢を目の当たりにしているので十分にできている。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日頃の活動を通じて職員の運営に関する意見等を聞き、月1回職員会議にて課題となる現場の声や意見を話し合い運営に反映できるよう努めている。法人内会議にて各施設・事業所状況、苦情や事故報告等を共有し、現場に持ち帰り話し合っている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	働きやすい職場環境になるよう職員の勤務状況を把握し、ケア以外の業務のスリム化を図り。個々の職員が持つ力をケアに活かせるようやりがいのある職場を目指し努めている。処遇改善計画・報告内容を全職員に周知個人面談を必要に応じ実施。		A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	就業者の意識が入所者に反映すると思う。介護サービス相談員の立場で意欲に繋がる声掛けをしたい。職員の入れ替わりがなく、母も家族も安心してケアを任せられる環境になっている。職員の特性に応じた対応をされている。

12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の職員のケア目標達成に必要な外部研修や勉強会(自己研鑽を含む)に参加。研修で学んだことを職員へ周知は出来ているが、具体的にどのようにケアに活かし、どうなったかの事例報告までには至っていない。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナで実践的に学んだ事と、研修で知識として得た事を共有することで更にレベルアップできると思う。 自己研鑽の内容を知りたいと感じた。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	福井県認知症高齢者グループホーム連絡協議会の研修を通じて交流を深めた。又今年度2月末発足した越前市グループホーム連絡会に参加し各事業所が抱える課題等を共有。今後も参加し共にサービスの質の向上に努める			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員は、本人がこれまで生きてこられた人生に思いを馳せ、心に寄り添い喜怒哀楽を共にし、日常生活でのいろいろな場面などで昔ながらの仕方や知恵や感性(人生観)を本人から学ぶなど支え合う関係を築いている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	お里巡り等(ドライブ)にて外出支援しているが、今年度は異常な猛暑、事業所内コロナ蔓延と機会は減っている。コロナ5類へと移行後、対面会へと緩和。会いたかった兄弟、娘や孫、又ひ孫の成長を手に取り感じる事が出来たと喜びの声も。	コロナウイルス感染症が、感染法上2類から5類に移行後、どこまで緩和するのか「感染症に対する個々の意識の違い」がある事を共通認識。利用者の生活がいつまでもコロナを理由に不自由なままではいけない、感染予防を講じた上での緩和、感染のリスクへの理解が必要。		

## II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	担当職員は、センター方式をツールにアセスメントを行い、本人の思いや生活に対する意向・希望の把握に努め、他の職員と情報共有しながら可能な限り本人本位に添った認知症ケアの実践に努めている。入居時、ご家族に協力働きセンター方式にて情報収集を行っている。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人・家族の意向を踏まえケアの在り方、主治医の意見を含め話し合いプランに反映している。本人が分かり易く実現可能なプランへと移行しつつある。	既存のサービスだけにとらわれない。 外部サービスや地域資源など組み込む。 状態変化に応じ見直し。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	取り組みもうとする姿勢や家族と話し合っている様子が見受けられる。他のグループホームと交流等進め資質向上に努めて欲しい。内部評価を重視。 一時期コロナ感染があったがそれ以降は出来る事を最大限実施できている。 身体的衰え、病気の進行は止められないが精神安定により状態緩和ができるように思う。

18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ケアの記録に関して、評価し易い記録(用紙)に見直し活用。職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	工夫して取り組んでいる。 電話で結果や気づきを知らせて下さっている。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	認知症啓発活動の一環として、地域包括支援センターと協働し、地区のいこいのついでにてミュージック・ケアを展開。地域の方にグループホームを広く知って戴く良い機会となった。これを機に次年度は健康カフェに利用者に参加し、地域交流/認知症予防/ケアに関する相談ができればと話し合っている段階です。	地域としては、グループホームで直接利用者の方と接しながら認知症ケアについて学ぶ機会があると良いと思う。 実習生の受け入れ。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	災害時や利用者失踪時には、法人内施設・事業所、市、警察、消防、区長、近隣住民と協力体制を図っている。感染予防を講じた上で、美容師、又今年度より介護相談員、外部サービス(個別支援)を受け入れている。	・介護サービス相談員は、事業所に出向き良い面(点)を引き出す方向で動いている(介護職員のモチベーションアップにも繋がるよう)。 ・10月看護実習生の受け入れは、事業所内コロナ感染拡大にて中止したが、今後も受け入れ予定。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人、家族の意向を確認、話し合いの上で納得した医療機関で受診できるよう支援。月2回協力医の訪問診療。又家族協力にて通院。医療機関との連携は密に行っている。			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院時、早期にホームで受け入れ可能な身体状態、ADL面の自立度を家族や医療機関に伝えている。医療機関の担当SWを窓口情報交換を行い、カンファレンスに参加。早期退院できるよう、退院後の留意点を含め多職種連携を図っている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今まで入退院はないが、今後その状況になった時、現状の様に対応してもらえるのは心強い。医療機関との繋がりを支援して下さっている。しっかりと連携を図っている。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	重度化した場合、今後の支援について本人・家族の意向や要望を確認した上で、主治医と相談し、事業所のできることをマニュアルに沿って個別支援している。又状態により退所となる場合も、医療機関や施設の相談員と情報共有し本人・家族の不安緩和に努めている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人・家族の意向にできる限り寄り添って対応している。 本人にとって一番良い選択は何かを家族の状況を合わせながら考えて貰える事は心強い。 生老病死、人の運命、安心して余生を送れるようお願いします。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	夜間緊急時の連絡方法(手順)や急変時対応をマニュアルに沿っての確認を行っている。 7月消防署による救急講習を受講。今後も併設事業所合同訓練を行い実践力を身に付ける。			

25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	R5.10月町内避難訓練(地震想定)に利用者と共に「わかたけ班」として参加し、救急蘇生・対応について地域の方々と一緒に学び防災意識を高めた。R5.11月避難訓練では実際に避難・搬送方法変えて実施。R6.3月夜間想定避難訓練実施予定。	能登半島地震から学ぶこと ・BCPの整備、訓練し運用。 ・日頃より備えと心の準備。 ・過去の震災の経験値にプラスαで行動。 ・日頃から事業所内の危険箇所を点検。	A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	BCPの整備は実施されており、能登半島地震が発生した事で更に意識が高くなっていると感じる。町内との繋がりの強さを会議でいつも感じる今後も継続して欲しい。災害対策を考える姿勢が見られ、会議の目的に置いた事から対策をより強固なものにしたいと感じ取れよりブラッシュアップを。沈着冷静な行動が出来るよう心身の鍛錬を。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日頃の利用者との関わりの中での、言葉掛けや接し方など、接遇に関して注意すべき状況があれば、その時に職員に対し、リーダーや管理者が指導している。ケアの振り返り。		Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	状況に応じ指導を実施している。利用者の性格や生きてきた背景に寄り添い、温かい対応をして貰い感謝している。声掛け歩く訓練をして下さっている。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の利用者のペースを把握し、その人の生活スタイルや暮らしのこだわりを大切に、それに合わせながらも生活の幅が広がるよう支援。(俳句を詠む、自由にホーム内散歩、化粧・ロット巻、新聞・テレビ情報時事ネタ会話、等々)			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	購入した食材の検品や野菜の皮むきなど出来る事で食事作りに参加、茶碗洗い等片付けを職員と一緒にやっている。利用者主体のクッキング Day、嗜好調査の実施。		Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	各利用者に合わせた支援を行っている。利用者が調理して食事が楽しめるような工夫が見て取れる。今も箸で食べている、湯呑を洗うと伺い嬉しく思う。飲み込みの大変な本人に流動食へと対応。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介護明細に食事量と水分量を記録・集計し把握。体重は月1回測定し、主治医と相談の上状態に応じた食事形態、食べれない方には、栄養補助食品(個人)を取り入れる等支援している。法人内の施設の栄養士の相談協力得ている。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎食前うがい・手洗いの励行と毎食後の義歯洗浄と歯磨き等、ブラッシング指導し口腔内チェック行うなど傍で見守り支援している。口腔ケアが理解困難な方に対しても個々に対応。義歯の不具合や治療が必要時には、協力歯科クリニックと連携し治療に繋げている。年1回歯科検診にて指導載っている。		Ⓐ. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	適切に対応していると思われる。食事の度に入れ歯洗浄して頂いているが、装着時嫌がる事があり、職員が危険だと医師からのアドバイスがありました。状況に応じ臨機応変な対応で十分だと思います。

31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の排泄パターンやその日の状態を把握し職員間で共有、パターンに合わせたトイレの声掛け・誘導、介助行っている。オムツ使用者が殆どだが、日中はショーツに切り替える等自立支援に努めている。水分量や献立の工夫、シニア体操や歩行練習等、個々に応じ便秘予防に努めている。		Ⓐ. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待委員会の内容に便意を上げている事から、排泄からくる問題点をしっかりと捉えられているように感じた。 工夫や取り組みを積極的に行っていると読み取れる。 夜間時の排泄介助や排便タイミングの察知等、きめ細かい対応をしている。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入浴は少人数で週6回。曜日や時間は本人の希望に添える様その時の心身の状態を見ながら努めている。入浴困難な方には職員二人対応にてシャワー浴や全身清拭含め状態に応じた保清と安全面に努めている。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の睡眠パターンや不眠の要因を把握。夜眠れない利用者には、日中の活動や人との交流の場を設け、生活リズム作りを通して安眠対策に努めている。短時間の昼寝や入浴後の休息、又足腰を伸ばす時間を取り入れる等個々の状態に合わせて対応している。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個別の看護記録に通院・往診結果を記録し薬剤情報を綴り職員全員が把握。薬の変更時は申し送りにて共有。服薬介助時の本人確認や服薬確認を徹底。服薬困難な場合、薬の形状を主治医に相談し対応。薬の変更(調整)時、経過記録実施し、次回通院時に施設CMが集約・文章化して担当医に伝えている。 薬の一包化にて管理。		Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	担当医と相談してキチンとして下さっている。 一包化し管理がきちんとできる対応を行っている。 他の施設で薬の取り違えの話を聞きました。細心の注意を徹底して下さい。 薬剤情報を職員全員で周知しており安心できる。 特別な治療時には、大まかな治療費も併せて教えて頂けると有難いです。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の得意とすることを暮らしの役割とし、ラポール委員会を設け毎月利用者主体の委員会を開催し、「やってみたい事・頑張りたい事」等利用者の意見を反映した活動を決めている(クッキング Day、ゲーム、作品作り、クラブ活動等)。今月の目標を決めホーム内に掲示。	・利用者一人ひとりの生活歴を知る(関りや会話のきっかけにもなる)。センター方式を元気なうちに活用する事で、自分自身や身近な大切な人の事を知ってもらう手立てになる。 ・活動に参加し楽しめているか利用者一人ひとり感じ方が違うので自己評価が難しい点がある。 ・本人の食べたい物や希望等を出来る範囲で取り入れる。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の	A. 十分にできている B. ほぼできている Ⓐ. あまりできていない D. ほとんどできていない	天気の良い日やその時々希望に応じ、事業所周辺や近所を散歩。花見やお里巡り等ドライブに出掛けているが、猛暑続きで出掛ける	次年度は、出来る範囲で外出行事を多く取り入れる。外出先で家族と合流参加もあり。又ボランティアや実習生等の協力など地域資源を活用する。		

		人々と協力しながら出かけられるように支援している		機会が少なかった。9月より家族とのドライブを緩和している。			
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	平成27年7月より、当事業所での現金の取り扱いはない事と決まり個人の預り金はない。小口の範囲で外出の際の買い物や飲食楽しめる支援体制だが緩和に至っていない。今後移動販売利用を含め徐々に緩和していく予定。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	県外の家族より、愛犬便りや手紙、電話はあるが、利用者自ら電話の利用や手紙のやり取りはない。希望があればそれに添えるよう支援している。毎年、家族宛てに年賀状作成し届けている。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家庭的なぬくもりを大切に空間づくりを心掛けている。共用スペースに季節の花々や毎月の作品を飾り明るく温かな雰囲気作りを努めている。居間を無くし、フリースペースを設けた事で、歩行器での歩行訓練や車椅子で自由に自走する等、活動的な場面が増えた。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ハード面で無理がある時はソフト面でカバーを。いつも傍にいる利用者の方と家に居るような居心地の良い場所にして頂いている。本人の顔が穏やかになっている事を嬉しく思う。季節の花が飾ってあり、食後に共用スペースに集まり楽しそうです。最近ラポール内への訪問は出来てないが、元々居心地の良い空間づくりができています施設であると認識している。

IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)

40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍で会えない、行きたいところに行けない不自由さはあるが、皆さん口々に「何もしない、する事がない」のが一番苦痛との事。自分の事は自分で出来る事を続けている。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人から、又面会時、家族や友人・知人から情報載っている。入居時、ご家族に協力戴きセンター方式(A1、B1、B2、B3シート)を活用し情報を得てケアに活かしている。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎月健康面をお便りで伝えている。月2回訪問診療を受けている。家族協力にて他医療機関で定期受診し連携。利用者の状態変化にあわせ環境整備(手摺や衝撃吸収マット設置、簡易センサー活用等)状態に合った食事形態での提供。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	状況に応じ対応している。毎月の写真入りのお便りや通院時の手紙で本人の状況を把握できます。本人は自分ではできないけれど、職員のきめ細かいお便りを楽しく読ませて頂いている。又健康報告に家族として安心です。

43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 十分にできている ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	起床後の身だしなみ(整髪料で髪整える) お化粧、入浴後、ロットカーラーを巻く、日記(メモ)をつける等、一人では困難になってきている為、職員が傍で見守り・声掛け、出来ないところは援助しながら継続に努めている。			
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A. 十分にできている ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	思い出のアルバム、ひ孫達の写真、馴染みの小物やバック、洋服、お化粧品や整髪剤、良く聞いていた歌謡曲(カセット、CD) 愛犬や家族からのお便り等。それらを見る、聞く、読み・書く等の場面や促し支援が必要となっている。		A. 十分にできている ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の思いに寄り添った支援を行えるよう努めているといつも感じている。 コロナにより自室に入る事がないので把握できない逆に教えて欲しい。 本人が忘れていたので大変だと思う。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる	A. 十分にできている B. ほぼできている ⓐ. あまりできていない D. ほとんどできていない	今年度は、猛暑もあり機会は減ったが、散歩やドライブと希望に応じ出かけている。コロナ5類移行後、徐々に緩和は進めているが、地域のイベントや祭り等に参加出来ていない。	次年度は、「外に出掛ける、地域交流」を進める。 感染対策の取り決めに十分に行い、初動対応強化を図る。ドライブ先(自宅に寄る)、お墓参りや冠婚葬祭、家族行事に参加。		
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A. 十分にできている ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ラポール委員会にて利用者主体で月の活動を決め、クッキング Day、ラポカフェ、ゲーム等を楽しんでおり、その様子をお便りに写真を載せてご家族に送付している。			
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 十分にできている ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・歌好きの利用者が多く皆で歌を歌っている時 ・北陸新幹線開通後見学や家族と外出や旅行を楽しみに個別で歩行訓練している時。 ・職員も含め皆と会話している時。 ・俳句を詠んでいる時。 ・自分の茶碗を洗っている時。		ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	その人の持つ潜在能力を引き出してあげて下さい(センター方式の活用)。 個々に合った場面の提供や支援ができている。 本人は歌が好きであり声をだす事は良いと思う。 認知症が進んでも歌やゲーム、行事を今も楽しめる事は施設のお蔭だと痛感します。長く過ごすお友達の存在も大きいと思う。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができる	A. 十分にできている ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	近所を散歩した際に挨拶する程度で、今後の課題。頂いた花は玄関や食堂、居室に自ら飾っている。	・健康カフェに参加(参加可能な日に) ・感染予防を講じた上で、地域交流会を開催。		
	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくるできている	A. 十分にできている ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	無理強いすることなく、本人のペースで過ごしています。出来ていた事も少しずつ分かってなくなって「どうしたらいいの」「助けて」を言葉やサインで職員に伝える事が出来る関係性で支援しています。共通の楽しみは歌で、いつかの歌声を地域に届けたいを目標に全力で楽しんでいます。	・地域交流会にて歌声披露する。 ・地区の文化祭にて作品を展示する。	ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族以上に親しみ安心な生活をしている。 今、母の表情や通院時の様子を見て、母が大切に接して貰っている事が伝わる。家族として「安心して母を任せられる」これ以上の幸せはないと思っています。利用者の思いに添った支援を行っており、家族からも信頼の言葉をいつも聞くことができている。安全・安心がモットーですね。